

富水地区 市民と市長との地域活動懇談会

7月17日(水) 城北タウンセンターいずみ2階ホール 参加者66名

小田原市加藤市長をお迎えして、富水地区まちづくり委員会委員(自治会長・各種団体役員で結成された組織)との懇談会が開催されました。

会議は、高橋副委員長の司会進行により進められ、始めに木村委員長、加藤市長の挨拶がありました。

内容

- (1) 富水地区まちづくり委員会の活動紹介(木村委員長)
7分科会の活動内容を分科会ごとに紹介しました
- (2) 地域コミュニティ組織の目指す姿について(加藤市長)
 - ・『地域コミュニティ組織基本指針』について説明
目指す姿「一人ひとりがつながり、地域で課題を解決する組織」地域だけにお任せするのではなく、行政も共に地域の課題を共有して「市民力」と「協働」で小田原のまちづくりを進めていく
 - ・『具体的方策』について具体的に分かりやすく説明
 - ◎誰もが気軽に交流できる場を創出 ◎新たな担い手の発掘・育成
 - ◎事務局の設置による会議運営など活動拠点化 等最後に地域と行政の連携について、行政からの支援・取り組みの説明があり、地域の運営や活動の目安として活用してほしいと話されました
- (3) 市長との懇談・意見交換
 - ・子ども会の衰退問題について → 他地区の子ども居場所づくりの取り組みを紹介
 - ・問題を抱える子どもを幼児から一貫支援できる専門家の組織が地域に必要では
→ つくしんぼ教室や、来年度に開設予定の「(仮称)おだわら子ども教育支援センター」を利用してほしい



木村委員長



加藤市長



- ・学校の先生方の多忙さは深刻、部活動は地域の指導者になど地域と連携をとる
- ・ラグビーWカップ、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、市民としての支援は。また小田原城址公園の整備計画は。
- ・他地域コミュニティ組織間の情報共有、意見交換の場が必要ではないか
- ・委員の高齢化、担い手不足の問題について
- ・中学生が地域コミュニティ活動へ日頃から参加することで災害時にも担い手になる



懇談会は、出席者から質問が多くあり、終了間際まで活発に意見交換がありました。加藤市長の説明にありましたように、地域で抱える課題は地域で共有し、行政と協働で問題解決に取り組み、安全安心で一人ひとりがつながっている地域を皆さんで作っていきましょう。

『ミニ集会』開催 主催：青少年育成会

「社会を明るくする運動」の一環として、ミニ集会在7月5日～19日の期間、富水地区16自治会が7会場に分れて開催されました。今年では会場ごとにテーマを決め、地域の課題について活発に意見交換を行ないました。



西北地区



久所・仲沢地区